

● 地域提案型

平成21年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	マレーシア
2. 事業名	マレーシアシブ市市民参加型廃棄物推進事業
3. 事業の背景と必要性	シブ市は人口約20万人で、サラワク州（ボルネオ島）第二の都市。サラワク州中央部の経済、行政、商業の中心地でもある。海に面していることから造船所、水産物の養殖、パームオイル産業なども盛んに行われている。このような産業の集積とともに人口も増加してきており、同時に廃棄物の量が年々増加し、市内の環境は急激に悪化している。 シブ市長はこの環境の改善を目指して、2007年度から北九州市が企画したワークショップに参加し、コンポストを核とした廃棄物の減量化に取り組むが、コンポスト自体の技術指導が未熟であることなどにより、普及が進まず市内の環境は悪化を続けている。 このような状況下、シブ市では北九州市の市民参加型廃棄物管理手法（KITAQ方式）を導入することで、市民への啓発活動や環境教育を強化し、同市で発生する廃棄物の適切な処理の促進を図り、もって住民の生活・衛生環境の改善、環境保全に寄与することとなった。
4. プロジェクト目標	行政・市民・NGOなどの協働による廃棄物管理システムを構築し、コミュニティの衛生環境改善、環境保全に関する意識の向上を図る。
5. 対象地域	シブ市
6. 受益者層	シブ市役所・地域住民
7. 活動及び期待される成果	<成果> 1) シブ市に適した住民参加型の廃棄物管理システムが確立される。 2) モデルコミュニティが選定され、パイロット事業として以下の活動が実施される。 3) 事業を通じ、各ステークホルダーの役割が明確化され、行政、市民、NGOなどが協働するためのモデルが形成される。 <活動> モデルコミュニティを選定し、住民による廃棄物管理組織（婦人会などが中核となることを想定）を結成させる。・北九州市から専門家を派遣し、ごみの収集運搬方法の改善を行い、不法投棄を防止する。 ・また、生ごみ堆肥化技術、ごみバンク活動（コミュニティ単位の有価物回収運動）を導入することで、ごみの減量化・資源化を促進し、市民の生活環境の改善を図る。 ・有価物の売却利益をコミュニティ改善に還元し、持続的にコミュニティの住環境が改善されるシステムを構築する。 ・コミュニティ住民が、廃棄物管理に主体的に取り組むことができるように環境教育を実施する。
8. 実施期間	2010年6月～2011年3月
9. 事業の実施体制	<日本側> 実施主体：北九州市環境局、技術支援：（財）地球環境戦略研究機関（IGES）、（株）ジェイベック <現地側> マレーシア・シブ市
II. 実施団体の概要	
1. 団体名 (提案自治体)	北九州市（環境局環境国際協力室）
2. 対象国との関係、協力実績	2007年6月の第4回北九州イニシアティブネットワーク会議にシブ市長が参加。2008年8月に北九州市がインドネシア・スラバヤ市で開催した、市民参加型廃棄物管理ワークショップにシブ市長が参加。 2009年3月に北九州市がIGESと共にタイ・バンコクで開催した市民参加型廃棄物管理ワークショップにシブ市より事業担当者が参加。 2009年10月に北九州市で行う、JICA研修「マレーシア廃棄物管理コース」にシブ市職員が参加。